

## 1. 第三者評価結果概要表

作成日 平成 21年 8月 20日

## 【評価実施概要】

|       |                                      |       |            |
|-------|--------------------------------------|-------|------------|
| 事業所番号 | 2875200897                           |       |            |
| 法人名   | 医療法人社団 白眉会                           |       |            |
| 事業所名  | エルダービレッジ グループホーム                     |       |            |
| 所在地   | 神戸市西区櫛谷町福谷882番地<br>(電話) 078-996-3000 |       |            |
| 評価機関名 | 特定非営利活動法人福祉市民ネット・川西                  |       |            |
| 所在地   | 兵庫県川西市中央町8-8-104                     |       |            |
| 訪問調査日 | 平成21年7月21日                           | 評価確定日 | 2009年8月20日 |

## 【情報提供票より】(H21年6月30日事業所記入)

## (1) 組織概要

|       |                 |                       |      |
|-------|-----------------|-----------------------|------|
| 開設年月日 | 平成 13 年 4 月 1 日 |                       |      |
| ユニット数 | 2 ユニット          | 利用定員数計                | 18 人 |
| 職員数   | 26 人            | 常勤 11人, 非常勤 15人, 常勤換算 | 5.6人 |

## (2) 建物概要

|      |       |        |
|------|-------|--------|
| 建物構造 | 耐火構造  | 造り     |
|      | 2階建ての | 1~2階部分 |

## (3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

|                     |              |                |          |
|---------------------|--------------|----------------|----------|
| 家賃(平均月額)            | 55,000 円     | その他の経費(月額)     | 円        |
| 敷金                  | 有(100,000 円) |                |          |
| 保証金の有無<br>(入居一時金含む) | 無            | 有りの場合<br>償却の有無 | 有 / 無    |
| 食材料費                | 朝食           | 157 円          | 昼食 283 円 |
|                     | 夕食           | 283 円          | おやつ 実費 円 |
|                     | または1日当たり 円   |                |          |

## (4) 利用者の概要(6月30日現在)

|       |          |      |     |    |     |
|-------|----------|------|-----|----|-----|
| 利用者人数 | 18名      | 男性   | 1名  | 女性 | 17名 |
| 要介護1  | 4名       | 要介護2 | 7名  |    |     |
| 要介護3  | 4名       | 要介護4 | 3名  |    |     |
| 要介護5  | 0名       | 要支援2 | 0名  |    |     |
| 年齢    | 平均 83.2歳 | 最低   | 68歳 | 最高 | 96歳 |

## (5) 協力医療機関

|         |                      |
|---------|----------------------|
| 協力医療機関名 | 佐藤クリニック、佐野伊川谷病院、櫻林歯科 |
|---------|----------------------|

## 【第三者評価で確認されたこの事業所の特徴】

西神中央駅からバスで10分ぐらいの新興住宅地にある。ホームの横のログハウスは地域交流や喫茶等利用者の憩いの場となっている。法人のクリニック(有床診療所)、老健が併設されている。利用者の居場所作りを設立当初より理念に入れており、利用者が地域の住民として生活できる支援がなされている。地域に対しては、認知症ケアの経験を活かした講座の開催も前向きに検討している。研修を通しての職員の意欲と質の向上にむけ、外部研修の情報提供、費用負担、有給休暇扱い等の支援がなされている。決算報告を運営推進会議で行い、経営の透明性に努める等信頼性確保の働きかけがなされている。

## 【重点項目への取組状況】

|      |   |
|------|---|
| 重点項目 | 前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:第三者4)   |
|      | 行事は老健中心だったが、グループホーム単独でも行えるようになった。生活圏の自治会に利用者が参加できるようになった。職員も地域との交流に努めている。今後もホームの経験を還元する等、地域との関わりを重視していきたい。  |
| 重点項目 | 今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:第三者4)  |
|      | 管理者・常勤職員で自己評価を行い、管理者がまとめた。毎年の評価を通して職員に共通認識が生まれ、全体的な意見の統一ができるようになった。今まではできていないで評価していたが、「~したい」「~すれば」と前向きな意見が多く出るようになった。今後は非常勤職員にも一部分取り組んでもらうことを検討していく予定。              |
| 重点項目 | 運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:第三者4,5,6)   |
|      | 地域包括職員、老人会、婦人会、家族、利用者、管理者等で定期的に関催。ホームの現状報告、家族会からの要望、地域包括から介護保険の改正や看取りの対応について、地域代表から行事等の情報提供が行われている。法人の収支決算報告、自己評価結果も知らせる等、透明性に努めている。                                |
| 重点項目 | 家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:第三者7,8)   |
|      | 家族に月一回でもホームに来てもらいたいので、毎月の利用料の持参をお願いしている。又、開設当初から職員の提案で、家族会を開催している。家族のみで話し合う時間を増やし、意見が出やすい配慮をしている。代表者から意見・要望が出され、事業所では前向きに対処し、運営に反映している。                             |
| 重点項目 | 日常生活における地域との連携(関連項目:第三者3)   |
|      | 住所表示が日常生活圏外であったため、行政と事業所の立地条件について相談し、生活圏での自治会活動に参加できるようになった。近隣住民と交流の機会が持て、老人クラブの催しに利用者も参加した。練習には職員も付き添った。他の利用者も観客として応援する等の地域との交流が生まれた。グループホームの行事にも声かけして、相互交流に努めている。 |

## 2. 第三者評価結果票

| 第三者                          | 自己 | 項目   | 取り組みの事実<br>(実施している内容・実施していない内容)  | 印<br>(取り組みを期待したい項目) | 取り組みを期待したい内容<br>(すでに取り組んでいることも含む) |
|------------------------------|----|--|--|---------------------|-----------------------------------|
| <b>.理念に基づく運営</b>             |    |  |  |                     |                                   |
| <b>1. 理念と共有</b>              |    |  |  |                     |                                   |
| 1                            | 1  | 地域密着型サービスとしての理念<br>地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている    | ・開設時からすでに地域密着の理念を代表者、管理者、職員で作りに上げている。今後も引き続きそれを活かして地域の人々との交流を進めていきたいとしている。   |                     |                                   |
| 2                            | 2  | 理念の共有と日々の取り組み<br>管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる                       | ・介護計画の作成時等に理念に立ち返り、利用者主体の支援を心掛けている。利用者が地域と交流ができるよう老人クラブに参加し、地域住民としての生活ができるよう支援している。  |                     |                                   |
| <b>2. 地域との支えあい</b>           |    |  |  |                     |                                   |
| 3                            | 5  | 地域とのつきあい<br>事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている | ・老人クラブの催しに利用者も参加し、練習を重ねホテルで発表会に立った。他の利用者も観客として応援した。グループホームの行事にも招待して、相互交流に努めつつある。地域のボランティアが買物同行している。                              |                     |                                   |
| <b>3. 理念を実践するための制度の理解と活用</b> |    |  |  |                     |                                   |
| 4                            | 7  | 評価の意義の理解と活用<br>運営者、管理者、職員は、自己評価及び第三者評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる  | ・管理者・常勤職員で自己評価を行い、管理者がまとめた。毎年の評価を通して職員に共通認識が生まれ、全体的な意見の統一ができるようになった。「～したい」「～すれば」と前向きな意見が多く出るようになった。今後は非常勤職員にも一部取り組んでもらうよう検討している。 |                     |                                   |

| 第三者                    | 自己 | 項目   | 取り組みの事実<br>(実施している内容・実施していない内容)  | 印<br>(取り組みを期待したい項目) | 取り組みを期待したい内容<br>(すでに取り組んでいることも含む) |
|------------------------|----|--|--|---------------------|-----------------------------------|
| 5                      | 8  | <p>運営推進会議を活かした取り組み</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p>              | <p>・地域包括職員、老人会、婦人会、家族、利用者、管理者等で定期的に関催。ホームの現状報告、家族会の要望、包括や地域代表の情報提供等行われている。法人の収支決算報告、自己評価結果も知らせる等、透明性に努めている。</p>        |                     |                                   |
| 6                      | 9  | <p>市町との連携</p> <p>事業所は、市町担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町とともにサービスの質の向上に取り組んでいる</p>                                  | <p>・住所表示が日常生活圏外であったため、西区の担当者と事業所の立地条件について相談し、生活圏での自治会活動に参加できるようになった。利用者が近隣住民と交流の機会が持て、事業所の実態を理解されるようになった</p>           |                     |                                   |
| <b>4. 理念を実践するための体制</b> |    |  |  |                     |                                   |
| 7                      | 14 | <p>家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている</p>                              | <p>・毎月の利用料は家族が事業所へ支払いに来る。家族は利用者の暮らしぶりや健康状態を直接報告を受け、意向表明でき、相互理解になっている。毎月の請求書と共に行事予定、職員の異動等も報告している。</p>                  |                     |                                   |
| 8                      | 15 | <p>運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>                                | <p>・開設当初から職員の提案で、家族会を開催している。家族のみで話し合う時間を増やし、意見が出やすい配慮をしている。家族会代表から意見・要望が出され、事業所では前向きに対処し、運営に反映している。</p>                |                     |                                   |
| 9                      | 18 | <p>職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p> | <p>・異動は行っていない。離職も少ないが、新人を迎えたときは、馴染みの職員と一緒に関わり、混乱を防いでいる。運営者は、余裕のある人員配置で職員のチームワークを深め、個別相談や責任の分散でストレスを溜めない配慮等を心掛けている。</p> |                     |                                   |


| 第三者                              | 自己 | 項目  | 取り組みの事実<br>(実施している内容・実施していない内容)  | 印<br>(取り組みを期待したい項目) | 取り組みを期待したい内容<br>(すでに取り組んでいることも含む) |
|----------------------------------|----|---|--|---------------------|-----------------------------------|
| <b>5. 人材の育成と支援</b>               |    |   |  |                     |                                   |
| 10                               | 19 | 職員を育てる取り組み<br>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている                | ・外部研修には費用を支給し、参加しやすい配慮をしている。研修結果はミーティングで報告する。内部研修は、同一法人の老健の研修に参加したり、月2回のミーティングでケア内容等の相互研鑽に努めている。ユニットリーダーを中心にOJTを実践している。  |                     |                                   |
| 11                               | 20 | 同業者との交流を通じた向上<br>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている      | ・グループホーム連絡会に管理者が参加している。職員は同一法人の老健で実地研修してケアの違いを確認したり、他のグループホームからの見学者と意見交換して、気づきや振り返りの機会を持ち、質の向上につなげている。                   |                     |                                   |
| <b>安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>         |    |   |  |                     |                                   |
| <b>1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応</b> |    |   |  |                     |                                   |
| 12                               | 26 | 馴染みながらのサービス利用<br>本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している | ・利用前に本人にホームを見学してもらい、行事に参加したり、食事の様子を見てもらったりしている。独居の人については自宅訪問して、部屋の様子等を把握している。利用当初は、決まった職員が共に過ごし関係作りをしている。必要に応じ家族に協力を求める。 |                     |                                   |
| <b>2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援</b> |    |   |  |                     |                                   |
| 13                               | 27 | 利用者と共に過ごし支えあう関係<br>職員は、利用者を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、利用者から学んだり、支えあう関係を築いている                    | ・料理や洗濯物の干し方等教わることが多い。忙しくしていると自然と手伝ってくれる。落ち込んでいるとき、利用者の前向きな姿勢を見ると、元気がもらえる。  |                     |                                   |

| 第三者                                | 自己 | 項目   | 取り組みの事実<br>(実施している内容・実施していない内容)  | 印<br>(取り組みを期待したい項目) | 取り組みを期待したい内容<br>(すでに取り組んでいることも含む) |
|------------------------------------|----|--|--|---------------------|-----------------------------------|
| <b>・その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>   |    |  |  |                     |                                   |
| <b>1. 一人ひとりの把握</b>                 |    |  |  |                     |                                   |
| 14                                 | 33 | <p>思いや意向の把握</p> <p>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している</p>   | <p>・家族からは本人の好みや習慣を聞き、ケアプラン作成の参考にしている。職員は日々の表情から気付いたことを記録し、ミーティングで話し合う等、思いや意向の把握に努めている。</p>                                     |                     |                                   |
| <b>2. より良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し</b> |    |  |  |                     |                                   |
| 15                                 | 36 | <p>チームでつくる利用者本位の介護計画</p> <p>利用者がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している</p>     | <p>・担当職員が様々な場面の気付きを大切に原案を作成。計画作成者が仕上げ、家族に説明する。必要に応じ看護師や認知症の専門者に意見をもらっている。24時間支援を念頭に置いている。</p>                                  |                     |                                   |
| 16                                 | 37 | <p>現状に即した介護計画の見直し</p> <p>介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、利用者、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している</p> | <p>・作成された介護計画を全職員が把握し実施するよう努めている。計画の定期見直しは3ヵ月毎にミーティングで支援内容について話し合い、新たなニーズをプランに取り入れている。大きな変化があれば、随時見直しをしている。</p>                |                     |                                   |
| <b>3. 多機能性を活かした柔軟な支援</b>           |    |  |  |                     |                                   |
| 17                                 | 39 | <p>事業所の多機能性を活かした支援</p> <p>利用者や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている</p>                                   | <p>・医療連携体制加算は取っていないが、併設施設の協力医や看護師の協力の下、早期退院の受け入れ準備や夜間緊急時の連携は取られている。今後は個別の利用者への特別な外出企画、ホームが地域拠点となり認知症の啓発や情報発信をしていきたいと考えている。</p> |                     |                                   |

| 第三者                             | 自己 | 項目   | 取り組みの事実<br>(実施している内容・実施していない内容)  | 印<br>(取り組みを期待したい項目) | 取り組みを期待したい内容<br>(すでに取り組んでいることも含む) |
|---------------------------------|----|--|--|---------------------|-----------------------------------|
| <b>4. より良く暮らし続けるための地域資源との協働</b> |    |  |  |                     |                                   |
| 18                              | 43 | <p>かかりつけ医の受診支援</p> <p>利用者や家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している</p>               | <p>・利用者、家族の希望を重視したかかりつけ医の受診を前提としているが、協力医の受診が多数である。</p>                                     |                     |                                   |
| 19                              | 47 | <p>重度化や終末期に向けた方針の共有</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から利用者や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している</p> | <p>・入居時に家族の意向を確認し、必要に応じ相談しているが、文書での同意手続きは行っていない。最近看取りを行い、その経験を基に、今後の方針を検討していきたいと考えている。</p> |                     |                                   |
| <b>. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>  |    |  |  |                     |                                   |
| <b>1. その人らしい暮らしの支援</b>          |    |  |  |                     |                                   |
| <b>(1) 一人ひとりの尊重</b>             |    |  |  |                     |                                   |
| 20                              | 50 | <p>プライバシーの確保の徹底</p> <p>一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない</p>                           | <p>・利用者の表情やしぐさを見まもり、声かけや対応の仕方に注意している。個人情報の取り扱いについては、職員の入職時以外にも、必要に応じて周知するよう努めている。</p>      |                     |                                   |
| 21                              | 52 | <p>日々のその人らしい暮らし</p> <p>職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している</p>             | <p>・利用者個々の希望を聞いて、それにそえるよう努力している。利用者自身が楽しみ、喜ぶことを重視し、生活の支援をしている。</p>                         |                     |                                   |

| 第三者                           | 自己 | 項目   | 取り組みの事実<br>(実施している内容・実施していない内容)  | 印<br>(取り組みを期待したい項目) | 取り組みを期待したい内容<br>(すでに取り組んでいることも含む)                      |
|-------------------------------|----|--|--|---------------------|--|
| (2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援 |    |  |  |                     |  |
| 22                            | 54 | 食事を楽しむことのできる支援<br><br>食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている    | ・基本は併設施設で用意した食事をホームで盛り付けているが、昼食はホームで調理からすることもある。日曜日は利用者、職員が買物から調理まで協力している。職員は自分の食事は持参している。 |                     | ・同じ食事を同席して取ることによって、季節の食材や味付けの好みなど話題が広がり一体感を強めるのではないかと。 |
| 23                            | 57 | 入浴を楽しむことができる支援<br><br>曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している   | ・日中は毎日入浴可能である。利用者のその時々状態や希望により、柔軟に対応している。利用者を気持ち良く入浴に促すような働きかけを工夫している。                     |                     |  |
| (3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援 |    |  |  |                     |  |
| 24                            | 59 | 役割、楽しみごと、気晴らしの支援<br><br>張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている | ・家事の当番制、畑や花の手入れなどを個々に分担して担ってもらおうようすすめている。月ごとに簡単な手作業を取り入れ、作品作りや趣味を楽しむ機会をつくっている。             |                     |  |
| 25                            | 61 | 日常的な外出支援<br><br>事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している                   | ・日常的な散歩や買物、通院など個別或いは複数で出かけている。ホームの用事があるときは、車に便乗してもらいドライブすることもある。                           |                     |  |
| (4) 安心と安全を支える支援               |    |  |  |                     |  |
| 26                            | 66 | 鍵をかけないケアの実践<br><br>運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる          | ・日中は施錠していない。職員はセンサーにより出入りは把握している。  |                     |  |

| 第三者                            | 自己 | 項目  | 取り組みの事実<br>(実施している内容・実施していない内容)   | 印<br>(取り組みを期待したい項目) | 取り組みを期待したい内容<br>(すでに取り組んでいることも含む) |
|--------------------------------|----|---|---|---------------------|-----------------------------------|
| 27                             | 71 | <p>災害対策</p> <p>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日頃より地域の人々の協力を得られるよう働きかけている</p>                                 | <p>・年2回定期的に避難訓練をしている。主に昼間想定で、利用者、職員全員で行っている。</p>  |                     | <p>・夜間対応の検討も望まれる。</p>             |
| (5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援      |    |   |   |                     |                                   |
| 28                             | 77 | <p>栄養摂取や水分確保の支援</p> <p>食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている</p>                                   | <p>・水分や食事量の調整が必要な人は、記録をとり、必要に応じ医師と相談している。好みの飲料を好きなききに飲めるよう配慮したり、食材や調理法などを工夫して提供している。</p>                          |                     |                                   |
| <b>2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり</b> |    |   |   |                     |                                   |
| (1)居心地のよい環境づくり                 |    |   |   |                     |                                   |
| 29                             | 81 | <p>居心地のよい共用空間づくり</p> <p>共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p> | <p>・中庭を囲みリビング、居室が配置されており、採光は良く開放感がある。リビングテーブルやコーナーには利用者が活けた花がさりげなく置かれ、利用者の作品とともに季節が感じられる。たたみコーナーは団欒の場ともなっている。</p> |                     |                                   |
| 30                             | 83 | <p>居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、利用者や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>                     | <p>・家族には、これまでの生活環境をできるだけ変えないために、家具や日常品の持ち込みをお願いし協力を得ている。その人にとって愛着があり大事にしていると思われる小物や作品が目につき、その人なりがうかがえた。</p>       |                     |                                   |

 は、重点項目。